

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■131■

よく「群馬はモノが安い」と聞く。確かに、総務省の県別消費者物価統計をみると、群馬は、ここ10年間、最安値圏内で推移している。一生活者の肌感覚でも、この低物価には大変助かっている。

ところが、お祭り男として出かけてみて感じるのは、当地でもお祭りでのモノの価格はかなり強気だ、ということだ。

先日驚かされたことがあった。とあるお祭りでは、焼きまんじゅう（あん無し）が300円で堂々と売られている。小生がひ

## お祭りのお値段

そかに遂行中の焼きまんじゅう屋巡りの経験上、260円前後が相場だと思っていたのに15%も高

## 場の価値で高値に

い！

そこで、「お祭り価格」

というものがあるとすれば、その背景には何があるのか考えてみた。ただし、ここで示す見解は、

日銀の公式見解ではないことをあらかじめお断りさせていただきます。まず考えられるのは、

原料や燃料、搬送にかか  
る費用を値段に反映した  
という「販売コストの観  
点」だ。お祭りで食べ物  
などを提供しようとすれ  
ば、運搬費や燃料が多く  
かかるかもしれない。

二つ目に、人（需要）  
が多く集まれば露店（供  
給）は強気な値段を付け

れるはずだ。

最後に、お祭りという  
非日常で楽しい空間で財  
布の紐が緩む結果、高い  
値段が受容されるという  
「付加価値の観点」もあ  
ろう。いわゆる、体験を  
楽しむ「コト消費」に高  
い料金が設定されるとい  
う考えだ。

られるという「需要と供  
給の観点」。お祭りでは、  
圧倒的な売り手市場のよ  
うにも思う。

三つ目に、面倒な釣り  
銭のやりとりを回避して  
値段を切り上げている可  
能性だ。これは「取引コ  
ストの観点」で、売り手

の力が強ければ顕著に表  
れるはずだ。

答えはほぼ真つ二つ（決  
めていない）が48%で、  
やや驚かされた。しかも  
聞かれた声にハツとし  
た。「年に数回のお祭り  
なので、楽しむことを大  
事にしたい」。これこそ、  
お祭りの付加価値。  
さまざまモノやサー  
ビスの価格設定において  
も、場の空気感も含めた  
付加価値が値段に反映さ  
れてもよいように思う。

「付加価値の観点」に

橋本商会（京都市）の  
お祭りの参加者調査で  
は、お祭りで予算を決め  
ているかの問いに対し、

軍配が上がりそうだと  
いうことで、600円の  
生ビールが進んでしまっ  
た言い訳をしたい。



宮 将史（みや・まさふみ）  
1974年、神奈川県出身。  
一橋大学院経済学研究科修  
士課程修了。2000年日本  
銀行入行。24年7月から現職